

個別の取組(案)の整理・検討

し尿処理適正化に向けて実施を考え得る取組として、「トイレの現状や利用に関する情報発信」や、トイレや避難小屋の適正利用等を目的とした「避難小屋の有人化」など、個別の取組(案)を整理しており、実施に向けた検討を進めています。

なお、全ての取組を実施するのではなく、各取組について自然環境への影響や維持管理体制・コスト等を十分に検討し、真に実施するものを選定していきます。

個別の取組案(一部)

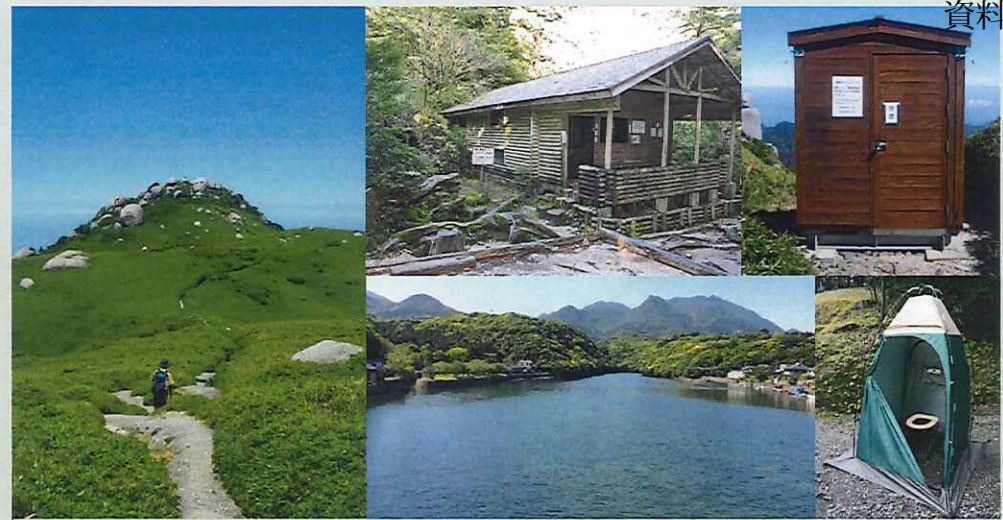
トイレの現状や利用に関する情報発信	より機動力のあるトロッコの管理・運用
避難小屋の有人化	ドローンによるし尿搬出
使用済み携帯トイレの持ち歩き負担軽減のための工夫	し尿運搬の担い手拡大と新たな組織化
関係機関での連携によるヘリの運搬の同時期・安定的な発注	既存トイレの機能改善
新たな処理方式の導入① ～し尿分離式トイレ(モナライト)の導入～	新たな処理方式の導入② ～小屋の有人化×バイオトイレの導入～
新たな処理技術の開発、試行 (誘致や連携体制の構築を含む)	管理機関の適切な役割・費用分担による業務効率化



避難小屋利用者への適正利用の啓発
(避難小屋の有人化に向けた検討)



森林軌道を活用したレールバイクの実証試験
(資材等の運搬を目的とする)



屋久島の自然を守るために 島民のみなさまに知ってほしい 屋久島の山のこと

島民のみなさまにご協力いただきたいこと



① 島内各所での情報発信

・島内の自然と水環境を守るためには、山岳部トイレの適正利用はとて重要で重要。来島者の方々へ、トイレの適正利用に関する情報発信・提供にご協力ください。

② 協力金制度の周知啓発および、「協力店」への参加

・屋久島の自然環境保全と適正利用のため、登山者の方に「屋久島山岳部環境保全協力金」の納入をお願いしています。多くの方に協力いただくために、周知啓発をお願いします。
また、協力者証をお持ちの方に観光にお得な各種サービスを行っていただく「協力店」も随時募集しています。島内の観光関連事業者のみなさまは、ぜひ協力店へご参加ください。

③ 担い手としての参画

・トイレの管理やし尿搬出の担い手が不足する厳しい状況を改善するために、島民のみなさまのご協力をお待ちしています。

し尿処理の現状と課題についての詳細

今回紹介した、屋久島山岳部のし尿処理の現状・課題の詳細については、HPでも紹介しています。右のQRコードからご覧ください。



「し尿処理適正化の方向性」について

屋久島の自然と水環境を守るため、屋久島山岳部のし尿処理適正化に向けた新たな方向性と取組(案)を整理した「屋久島山岳部における今後のし尿処理適正化の方向性」を各関係者との協議のもと作成しました。本冊子では、今回作成した方向性の内容を簡単に紹介します。

屋久島山岳部のし尿処理の現状と課題

① 山岳部トイレの整備・管理状況

現在、屋久島の山岳部の様々な場所にはトイレ又は携帯トイレブースが整備され、各関係機関や島内のガイド、民間会社の方々によって維持管理されています。

しかし、登山口から遠いトイレは、便器の汚れや便槽の満杯など不具合が生じたときの迅速な対応が難しく、課題が多くあります。



山岳部トイレ清掃の様子



山岳部トイレの位置図



小杉谷バイオトイレ

② 限られたインフラ環境

山岳部では、電気や水、管理用道路といったインフラの条件が限られています。また、登山口からのアクセスが悪いトイレもあり、各トイレの維持管理は非常に多くの労力がかかっています。

一部は、微生物の働きによってし尿を分解するバイオトイレなどを設置していますが、気象条件や利用状況によっては不具合が生じることも少なくありません。



し尿搬出の様子

③ 過酷なし尿運搬

屋久島山岳部では、車両の通行できる区間が限られているため、トイレに溜まったし尿の多くは、タンクに詰めて、人が担いで登山口まで運んでいます。

体力のある人でも膝や腰を故障することがあり、長期間の従事が難しい仕事です。

④ 屋久島山岳部環境保全協力金の現状

山岳部トイレの維持管理には登山者等からいただいた「屋久島山岳部環境保全協力金」を活用していますが、協力金のみでは各施設の整備費・維持管理費を賄うことができず、行政予算も投入して対応しているのが現状です。

屋久島山岳部のし尿処理で目指していること

10年後の目指す姿

共生と循環の島・屋久島らしいし尿処理のあり方を目指して
 ～来訪者も含めた島に関わる全ての人々とともに～

水環境の保全

水環境の保全を、全ての取組の大前提とする。

来訪者のおもてなし

山岳部ビジョンの利用体験ランクに応じて、必要な環境や施設の整備を目指す。

屋久島でしかできない学びの集積、提供

ハード・ソフト両面から様々な取組に挑戦し、他地域でも参考となる学びの集積・提供を目指す。

来島者も含めた関係者との連携

地域関係者のみならず、屋久島を訪れる人、屋久島に思いや関心を寄せる人など、多くの関係者と連携して、より持続的なし尿処理のあり方を目指す。

基本方針

基本方針1: 里のトイレと同等の快適性は求めないが、適切に維持管理されている状態を目指す。

基本方針2: トイレ施設的大幅な拡充は想定せず既存トイレの安定的な運用を目指す。新たな処理方式等の導入検討も積極的に進めていく。

基本方針3: 担い手や理解者・協力者を増やすとともに、リソースを最大限発揮できる体制を整えることで維持管理体制を改善し、ハード面の選択肢を広げていく。

エリアごとの方向性

山岳部のエリアを5つに分け、エリアごとに今後の方向性を整理しています。

【宮之浦岳・縦走ルート】

- ・利用・運用、処理方法、運搬方法、担い手、体制など複数の観点から改善を検討
- ・避難小屋(新高塚小屋、高塚小屋)の有人化の検討

【縄文ルート】

- ・既存トイレの改修時には、新たな処理手法の導入を検討
- ・トロッコの管理体制の構築の他、小型・軽便車両の導入等による維持管理の機動力向上

【その他避難小屋・登山道】

- ・より効率的な搬出方法、体制の検討
- ・将来的な施設方針の検討

【登山口】

- ・計画的な施設更新の検討
- ・登山口でトイレをすますことや利用マナーの普及啓発

【レクリエーションの森】

- ・携帯トイレの更なる普及の促進
- ・白谷小屋トイレでの新たな処理技術の開発・試行

